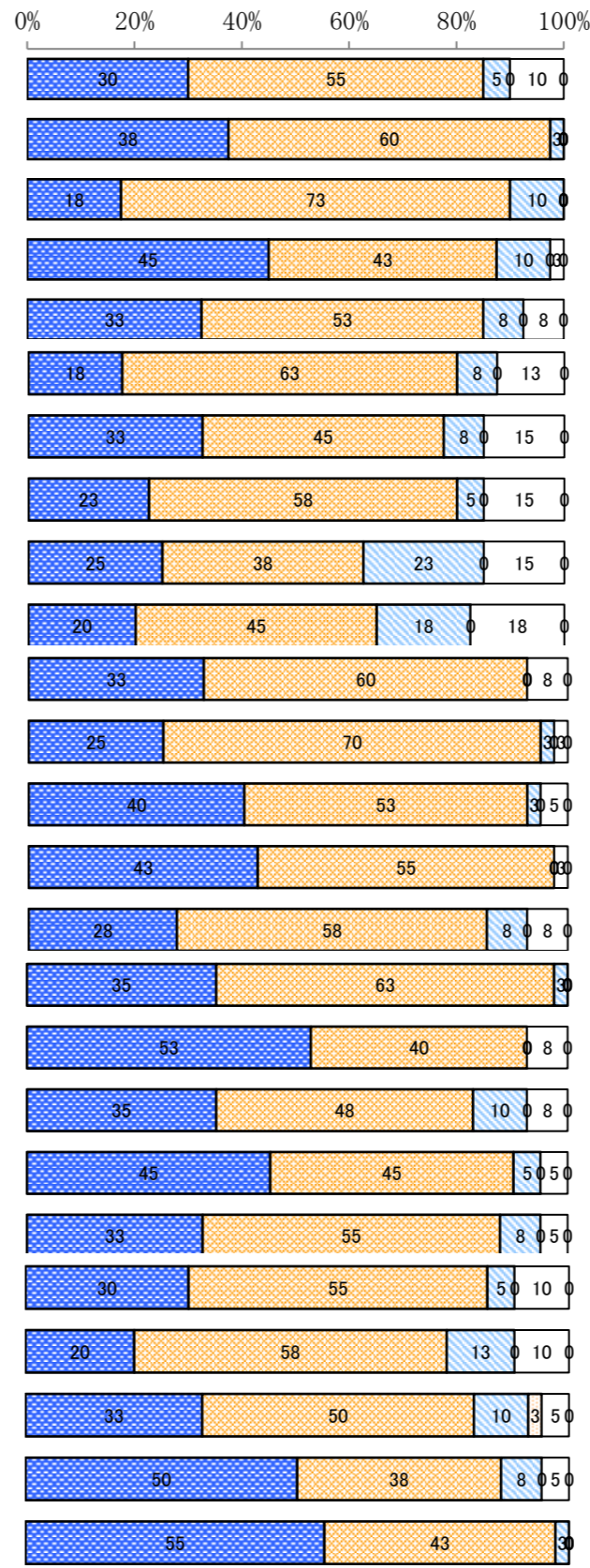
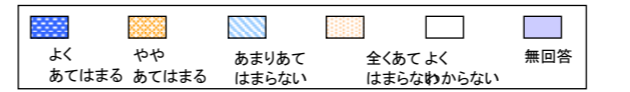


令和元年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立第四中学校

様式 4

アンケートの結果			上段：生徒		下段：保護者等		グラフ：教職員	
			A	B	C	D	よく分らない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	20 26	46 59	20 7	3 1	12 7	0 0
	2	児童・生徒の様子	52 32	35 54	7 11	2 1	4 2	0 0
	3	基本的な生活習慣	46 22	42 62	9 12	2 2	2 2	0 0
	4	児童・生徒理解	28 23	38 58	19 12	7 4	8 4	0 0
	5	健康・安全・安心	39 30	43 58	10 7	3 2	5 5	0 0
学力向上の取組	6	分かる授業	20 12	49 49	18 16	9 4	5 19	0 0
	7	個に応じた指導	27 17	45 50	16 16	6 4	6 14	0 0
	8	学習習慣	29 22	33 46	19 16	14 5	5 11	0 0
	9	情報教育	29 24	42 43	19 11	6 4	5 19	0 0
	10	学校図書館の活用	18 17	42 34	26 23	10 7	4 19	0 0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	37 19	44 48	11 12	4 3	4 18	0 0
	12	道徳教育	30 22	46 54	13 8	5 2	6 14	0 0
	13	教育相談	25 17	29 46	22 13	14 4	11 20	0 0
	14	人間関係づくり	53 52	31 42	10 4	4 0	4 1	0 0
	15	自治的な活動	33 36	40 50	13 6	3 2	10 5	0 0
保護者・地域との連携	16	情報発信	23 27	24 54	16 11	8 4	29 5	0 0
	17	相談への対応	27 31	41 49	14 10	5 2	13 8	0 0
	18	学校への参加	33 27	42 57	14 10	5 2	6 5	0 0
	19	地域との連携	19 32	29 50	26 7	16 0	10 11	0 0
	20	意見の反映	23 21	39 48	14 8	5 2	19 21	0 0
各学校の特色ある教育	21	キャリア教育	40 35	32 46	14 7	4 2	10 10	0 0
	22	オリンピック・パラリンピック教育	27 18	42 50	17 9	5 2	9 21	0 0
	23	部活動	36 28	36 40	10 14	4 7	14 11	0 0
	24	食育	43 33	38 49	11 7	3 3	5 7	0 0
	25	学習環境美化	26 34	45 52	15 9	9 1	5 4	0 0



無効票を除く(%)

無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

「あいうえおの学校像」と「かきくけこの目指す生徒像」は、親しみやすく、ほぼ定着している。しかし、よく分からないと回答している生徒がいるので周知したい。

三者とも85%以上が明るく楽しい学校生活を過ごしていると感じている。全ての生徒が明るく過ごせる学校づくりを目指す。

三者とも約85%以上、基本的な生活習慣が身に付いていると感じている。生徒会を中心にして、さらに「あいさつのあふれる学校」を目指す。

4人に1人の生徒は満足していないようである。「寝る時は大いに寝る、叱るときは本気で叱る」姿勢を徹底し、日々の教育活動の中でさらに生徒理解を深めたい。

三者とも80%以上が健康や安全、また、防災教育への意識は高まりつつある。全ての生徒が安心・安全に通える学校づくりを目指す。

4人に1人の生徒が授業が分からない・つまらないと感じている。授業内容の工夫、教員の授業力向上に努め、分かる授業から楽しい授業への改善を図る。

学習の形態や内容の工夫、習熟度別の学習集団の編成方法の工夫をし、全ての生徒が満足できる、個に応じた指導を図る。

昨年度より減少したものの、約30%の生徒が授業以外に勉強をしていないことが分かる。各教科で「結果に結びつく課題」の工夫をして、生徒の学習意欲の向上を図る。

70%の生徒は「ICT機器をよく使っている」と感じている。授業での電子黒板やタブレットPCの活用を推進し、生徒のニーズに応える。

36%の生徒が図書館は活用されていないと感じている。読書量を増やす工夫と授業での図書館活用について各教科で推進する。

生徒・教職員の80%以上が人権教育が充実していると感じているが、保護者は67%であった。また、保護者の18%が分からないと回答している。保護者の回答について分析をし、改善を図る。

三者とも道徳教育が充実していると感じている。「考える道徳」への授業の改善と、ローテーション道徳の活用など質的な変換に取り組む。

生徒の36%は相談できる先生がない・自分の居場所がないと思っている。また、保護者の回答の分からないが20%であった。教育相談の組織のさらなる見直しと機能の一層の充実を図る。

14%の生徒が積極的に参加できていないと感じている。全ての生徒が活躍できる、達成感と充実感のある行事づくりを目指す。

学級や生徒会、部活動、ボランティアなどで、全ての生徒に「自己有用感」を感じさせて、自治的・自発的な活動に発展させていく。

47%の生徒が学校情報に関心がないようである。学校だよりは読む時間などをつくり、周知していく。また、学校HPの充実を図り、教育活動の発信を推進していく。

生徒が一人で悩みを抱え込まないように、日頃からの声掛けを大事にして、自分の思いを安心して話せる環境づくりに心がける。

運動会と文化祭は大盛況で、保護者や地域の方が参加しやすい行事になっている。土曜授業の参観者を増やす工夫を図る。

地域は四中生の地域行事への参加に期待をしているが、意欲的に参加する生徒は一部である。年度当初に年間の予定を元に広く生徒に働きかけていく。

生徒・保護者の20%がよく分からないと回答している。教育活動の改善が常に図られていると分かるよう

三者の評価に多少の差があるが、おおむね充実していると感じている。企業訪問や勤労留学などを通して、さらにキャリア教育の充実を図り、夢のある生徒を育てたい。

2020東京オリンピックに向けたオリンピック・パラリンピック教育は、四中の特色ある教育活動として定着している。

昨年と比較すると、生徒よりも保護者の方が満足していない傾向がある。生徒・保護者のニーズに十分に応えるよう、校内体制を見直し、部活動の一層の充実を図る。

三者共に80%が毎日の給食に満足している。今後も給食を通し更なる食育教育の充実を図る。

三者とも学校に愛着をもち、日々の校内美化に努め、落ち着いた学習環境の維持に努めている。